

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	青少年の家	評価対象年度	令和6年度
事業者名	・事業者名 かわさき未来応援パートナーズ ・代表者名 株式会社東急コミュニティー 代表取締役社長 木村 昌平 東京都世田谷区用賀4丁目10番1号 ・構成員名 公益財団法人川崎市スポーツ協会 会長 中山 紳一	評価者	青少年支援室長
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日	所管課	こども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	①年間延べ利用者数 35,981人 (R5年度:34,347人) うち宿 泊:21,225人(R5年度:19,686人) うち日帰り:14,756人(R5年度:14,661人)	②年間延べ利用団体数 969団体 (R5年度:959団体) うち宿 泊:325団体(R5年度:308団体) うち日帰り:644団体(R5年度:651団体)
収支実績	単位:円 1 収入 指定管理料 80,211,000 利用料金収入 11,862,155 参加費収入 5,090,600 物品販売収入 1,119,231 その他収入(食堂収入等) 15,322,469 補填金 838,087 合 計 114,443,542 2 支出 人件費 44,066,465 管理費 72,100,189 (委託費) (31,854,264) (光熱水費) (18,212,906) (修繕費) (4,869,782) (賃借料) (2,951,655) (その他経費) (14,211,582) 合 計 116,166,654 差 引 -1,723,112	
サービス向上の取組	利用者ニーズを把握するため利用者アンケートを実施しながら、新たな事業を実施している。令和6年度においては、特に青少年教育施設である八ヶ岳少年自然の家と連携しながら、現地での宿泊体験等を実施したほか、川崎市スポーツ協会のネットワークを活かしながら、市内小中学校においてボッチャ教室や車椅子ラグビーの実施など、様々な事業サービスを提供した。	

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業推進	施設の目的に合った事業が実施されているか	5	3	3
		計画どおり事業が実施されているか			
	事業成果	事業成果として利用者数に増加傾向がみられるか	5	4	4
	(評価の理由) ・令和6年度については、事業計画通りに主催事業等実施した。これまでは近隣小学校児童を対象に八ヶ岳宿泊体験を実施していたが、他地域や他区からの参加希望もいただいたため、令和6年度においては、八ヶ岳少年自然の家と活動プログラムを調整しながら、市内全域の小学生児童を対象に定員数を増員して実施した。 ・令和5年度に実施したボッチャ教室が好評であったことから、令和6年度では職員が審判研修を事前に受講し、その内容を全職員が共有したことで、実施回数を増やすことができ、事業内容の更なる充実につながった。 ・利用者数について、日帰り利用・宿泊利用共に令和5年度より増加し、市総合計画等で示された目標値の34,000人を令和5年度に引き続き上回った。				
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理がされているか	5	2	2
	効率的・効果的な支出	計画に基づく適切な収入が確保されているか	10	3	6
		計画に基づく適切な支出がなされているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
		効率的な執行等、経費削減の具体的な取組がなされているか			
	(評価の理由) ・適切な金銭管理・会計手続については、備品管理において市の備品整理簿及び指定管理者の台帳に登載されたまま廃棄した事例が発生したが、その後、新たに「備品廃棄依頼票」様式を作成し、廃棄前に当該依頼票を記入して市に提出することで整理し、適正な会計処理に努めることができた。また、令和5年度及び令和6年度の収支報告において、記載に誤り(人件費における職員諸手当)があった。 ・効率的・効果的な支出については、修繕の発注にあたり相見積り額の査定を行ったり、消耗品等を購入する際は複数のホームセンターやオンラインショッピングで料金を比較したうえで安価な商品を購入することに努めながら、効果的かつ適切に執行している。 ・利用者数の増加により、利用料収入、主催事業費参加費収入、物品販売収入が増額した。また、昨今のコメ価格高騰により、食堂におけるごはんのおかわりについては、新たに料金を設定する等、必要経費の確保に向けて柔軟に対応した。				

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業が積極的に広報されているか	5	3	3
		広報の方法に工夫が見られるか			
	利用者への対応	利用者に対する接遇が適切にされているか	10	3	6
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校や行政等と連携が図られているか	10	3	6
	利用者ニーズ	利用者ニーズの把握がされているか	10	3	6
		把握したニーズが事業運営へ反映されているか			
(評価の理由) ・施設・事業の広報については、日頃から宮前区内の地域教育会議等で主催事業のチラシ等で周知するほか、新たな広報媒体としてInstagramを開設し、主催事業の広報や施設の利用状況を更新しながら施設の魅力を発信している。 ・利用者への対応については、職員会議等を通じて利用者からのアンケート内容の共有やトラブル対応など職員間の情報共有を適切に行い、利用者への接遇は適切にされており、大きな苦情等なく施設運営を行った。 ・学校との連携については、課外授業「職場インタビュー」の課題で、青少年の家の仕事についてのインタビュー対応や職場体験学習を行ったり、ほのぼのスクール(近隣小学校児童を対象に学校に通学しながら青少年の家での宿泊生活を行い参加者同士の交流を深める事業)を実施するなど連携を深めた。 ・利用者ニーズについては、積極的にアンケートを実施し、職員会議等を通じて職員間で情報共有を行うことで課題の把握・解決に努めた。					
組織管理体制	適正な人員配置	利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか	10	4	8
		事業の目的を考慮した適正な職員が採用されているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップを図るために必要な研修等が実施されているか	5	4	4
	個人情報等の取扱	個人情報保護の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
	(評価の理由) ・適正な人員配置については、能力や実績をもとに計画どおり職員を配置した。非常勤・パート職員等の臨時職員については、利用者数の増加や夏期におけるプール監視員の配置等必要に応じて配置人数を増員し、円滑な施設運営に努めた。 ・職員の研修体制については、「ポッチャ審判研修会」に職員が参加し、主催事業として実施しているポッチャ教室の資質向上につながった。また、障害者総合支援法の改正に伴い、本部主催で実施された「ユニバーサルマナー研修」に全職員が受講し、障害者に対する接遇や車椅子の補助についてなど、より実践的な研修内容を受け、日頃の施設運営につながるものとなった。 ・個人情報等の取扱については、情報漏洩等のトラブルはなかった。また、個人情報保護に係る諸規定の遵守や、個人情報を取り扱う総務担当職員が個人情報保護に関する研修の受講し、その内容を全職員への周知するなどを行い、個人情報の保護に努めた。				
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	5	5
		利用者の安全確保	利用者の安全確保のため、工夫がされているか	5	3
	防犯対策		事故等が発生した場合に適切な対応が行われているか		
		施設の防犯のための工夫がされているか	5	3	3
	緊急時のマニュアル等が整備されているか				
	災害への対応	避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか	5	3	3
		災害発生時のマニュアル等が整備されているか			
(評価の理由) ・施設・設備の保守管理については、東急コミュニティーの設備技術員の管理・指導のもと、保守点検管理を実施し、その結果に基づく修繕等を着実に行った。 ・食堂等の大規模改修工事を実施するに伴い、一時的に営業を中止したため、食堂収入の減額は生じたものの、利用者への事前周知等きめ細やかな対応を行い、施設運営に影響が生じることなく、設備環境が改善された。 ・計画していた工事以外にも職員による日々の巡回や利用者アンケートにより経年劣化の目立つ箇所に関しては、適宜修繕・取替工事を行うなど積極的な施設整備を行い、当初の予算額以上の修繕工事を実施した。 ・利用者の安全確保については、入所時のオリエンテーションで利用者に対して、施設の利用方法や注意事項等を丁寧に説明することを徹底するなど、利用者には適宜注意喚起を図るなど取り組んだ結果、特に大きな事故や怪我なく施設運営を行うことができた。 ・防犯対策については、職員が毎日施設内を巡回し異常の有無を確認するとともに、敷地内に放置された投機物についても警察署に相談しながら適切に対応した。 ・災害への対応については、事業計画に基づいた避難計画の実施及び隣接する避難所の宮崎中学校と連携し、災害の際はお風呂場の提供や職員支援等の取り決めを行うといった協力体制をとっている。					

注) 配点×(評価段階／5)=評価点

4. 総合評価

評価点合計	65	評価ランク	C
-------	----	-------	---

注) 評価点:100点満点。評価ランク:5段階評価

A(80点以上):特に優れている、B(70点以上80点未満):優れている、
C(60点以上70点未満):適正である、D(50点以上60点未満):改善が必要である、
E(50点未満):問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

利用者数については、市総合計画等で示された目標値の34,000人を上回るとともに、令和5年度利用者数も上回ったことを評価する。日頃から利用者のニーズを捉えるためにアンケートを中心に意見や要望等を取り入れ、主催事業における対象者の拡充や実施回数の増加等を内容の充実を図ったことが増加の要因として挙げられる。また、令和6年度においては、障害者への支援に関する取組の強化が同え、職員による研修及び川崎スポーツ協会の強みを活かした事業が実施された。さらには、施設の設備における保守管理においても、適宜修繕・取替工事を行うなど積極的な施設整備を行い、当初の予算額以上の修繕工事を実施したほか、食堂等の大規模改修工事を実施するに伴い、利用者への事前周知等きめ細やかな対応を行い、施設運営に影響が生じることなく、設備環境が改善されたことを評価する。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

宿泊体験施設である当該施設の設置目的を踏まえながら、利用者数の更なる増加に向けて、宿泊利用者や主催事業参加者からのアンケートの意見要望等を取り入れていただきたい。併せて、昨年度開設されたInstagramを活用し、毎月のイベントスケジュールだけでなく、主催事業の取組様子や日頃の施設運営状況を写真や動画等で展開し、中高生や若者向けに施設の魅力を発信し、施設の利用につながるよう取り組んでいただきたい。また、適切な金銭管理・会計手続について、備品の登録及び廃棄等が発生した場合は、「備品廃棄依頼票」に基づいて処理するよう、適正な会計処理に対応していただきたい。
